九州大学大学院数理学府 平成 24 年度修士課程入学試験 基礎科目

$$1$$
 $A o egin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 0 \ 0 & 1 & -1 & 1 \ 0 & 0 & 0 & 0 \ 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$ より $\operatorname{rank} A = 2$ である. $\begin{pmatrix} 2 & 1 & 3 & -1 \end{pmatrix}$ $\begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$

 $A^3 = 0$ より $rank A^3 = 0$ である

 $(2) c_1a + c_2A + c_3A^2 + c_4b = 0$ とするとき

両辺に A を掛けると $A^3 = 0$ と (i) より $c_1Aa + c_2A^2a = 0$ を得る.

さらに両辺に A を掛けると $c_1A^2a=0$ を得る.(ii) より $A^2a\neq 0$ なので $c_1=0$ である.

 $c_1 = 0$ を $c_1 A a + c_2 A^2 a = 0$ に代入すると $c_2 A^2 a = 0$ なので $c_2 = 0$ である.

 $c_1=c_2=0$ を $c_1a+c_2A+c_3A^2+c_4b=0$ に代入すると $c_3A^2a+c_4b=0$ なので

(ii) より $c_3 = c_4 = 0$ である.

以上により、a, Aa, A^2a , b は一次独立である.

$$[2](1) \begin{pmatrix} s \\ t \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos\frac{\pi}{4} & -\sin\frac{\pi}{4} \\ \sin\frac{\pi}{4} & \cos\frac{\pi}{4} \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} と変数変換すると$$

$$C = \left\{ (s, t) \in \mathbb{R}^2 \middle| \frac{3}{2} s^2 + \frac{1}{2} t^2 = 1 \right\}$$

であるから曲線 C の概形は楕円 $\frac{3}{2}x^2+\frac{1}{2}y^2=1$ を原点回りに $\frac{\pi}{4}$ 回転させたものである. $(2) \ f$ は連続で C はコンパクトであるから有界閉集合上の連続関数は最大値, 最小値を持つことより

П

- (2) f は連続で C はコンパクトであるから有界閉集合上の連続関数は最大値, 最小値を持つことより $f|_C$ は最小値を持つ.
- (3) $f(x,y)=(x-a)^2+(y-b)^2$ として (2) の結果を用いると最小値となる $Q=(x_0,y_0)\in C$ について $d(P,C)=(f(x_0,y_0))^{\frac{1}{2}}$ である.

 $f|_C$ は Q において極小値なので Lagrange の未定乗数法を用いると

$$F(x,y,\lambda) = f(x,y) + \lambda(x^2 + xy + y^2 - 1)$$
 とするとき

 $F_x(x_0, y_0, y_0) = F_y(x_0, y_0) = F_\lambda(x_0, y_0) = 0$ rbs.

従って, $(x_0+2y_0)(x_0-a)=(2x_0+y_0)(y_0-b)$ である. 曲線 C の点 Q における接ベクトル a を求めると $\frac{dy}{dx}=-\frac{2x+y}{x+2y}$ なので $a=((x_0+2y_0),-2(x_0+y_0))$ である.

 $\stackrel{\sim}{PQ}=\stackrel{\sim}{(x_0-a,y_0-b)}$ なので $a\cdot PQ=(x_0+2y_0)(x_0-a)-(2x_0+y_0)(y_0-b)=0$ である.

従って,
$$PQ$$
 と C は直交する.

(4) P=(3,1), Q=(1,0) のとき $f(x,y)=(x-3)^2+(y-1)^2$ として Lagrange の未定乗数法を用いると

$$Q=(1,0)$$
 は極値であるので $f_{xx}(1,0)=2>0$ かつ $det \begin{pmatrix} f_{xx}(1,0) & f_{xy}(1,0) \ f_{xy}(1,0) & f_{yy}(1,0) \end{pmatrix}=4>0$ より

 $f|_C$ は Q=(1,0) で極小値をとる.

従って,
$$d(P,C) = |PQ|$$
 である.

$$[3](1)\ a=b\ \mathfrak{O}$$
とき $M\to \begin{pmatrix} 1&\cdots&1\\0&\cdots&0\\ \vdots&\ddots&\vdots\\0&\cdots&0 \end{pmatrix}$ より $\dim\mathrm{Ker}M=n-1$ である

(2)

$$detM = (a + (n-1)b) \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & \cdots & 1 \\ b & a & b & \cdots & b \\ b & b & a & \cdots & b \\ \vdots & \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ b & b & b & \cdots & a \end{pmatrix}$$
$$= (a + (n-1)b) \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & \cdots & 1 \\ 0 & a - b & 0 & \cdots & 0 \\ 0 & 0 & a - b & \cdots & 0 \\ \vdots & \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 0 & 0 & 0 & \cdots & a - b \end{pmatrix}$$
$$= (a + (n-1)b) (a - b)^{n-1}$$

である.

(3) (i) a=b のとき $\dim \operatorname{Im} F=1$ であり $\operatorname{Im} F$ の基底は

$$\begin{pmatrix} 1 \\ \vdots \\ 1 \end{pmatrix}$$
 である

(ii) a=-(n-1)b のとき $\dim \mathrm{Im} F=n-1$ であり $\mathrm{Im} F$ の基底は

$$\begin{pmatrix} -n+1 \\ 1 \\ \vdots \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ -n+1 \\ \vdots \\ 1 \end{pmatrix}, \dots, \begin{pmatrix} 1 \\ \vdots \\ -n+1 \\ 1 \end{pmatrix}$$
である.

(iii) $a \neq b$ かつ $a \neq -(n-1)b$ のとき $\dim \operatorname{Im} F = n$ であり $\operatorname{Im} F$ の基底は

$$\begin{pmatrix} a \\ b \\ \vdots \\ b \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} b \\ a \\ \vdots \\ b \end{pmatrix}, \cdots, \begin{pmatrix} b \\ b \\ \vdots \\ a \end{pmatrix}$$
 ా శ్రా

[4](1) C を積分定数とする.

 $x = \alpha \tan \theta$ とすると

$$\int \frac{x^2 - \alpha^2}{(x^2 + \alpha^2)^2} dx = -\frac{1}{\alpha} \int \cos 2\theta d\theta$$
$$= -\frac{1}{2\alpha} \sin 2\theta + C$$
$$= -\frac{1}{\alpha} \frac{\tan \theta}{1 + \tan^2 \theta} + C$$
$$= -\frac{x}{x^2 + \alpha^2} + C$$

である.

(2) $\alpha = \sqrt{y^2 + 1}$ として (1) の結果を用いると

$$\begin{split} \int_0^b \int_0^a \frac{x^2 - y^2 - 1}{(x^2 + y^2 + 1)^2} dx dy &= \int_0^b -\frac{1}{y^2 + a^2 + 1} dy \\ &= \left[-\frac{a}{\sqrt{1 + a^2}} \tan^{-1} \frac{y}{\sqrt{1 + a^2}} \right]_0^b \\ &= -\frac{a}{\sqrt{1 + a^2}} \tan^{-1} \frac{b}{\sqrt{1 + a^2}} \end{split}$$

である.
$$(3) \lim_{b \to \infty} \lim_{a \to \infty} \int_0^b \int_0^a \frac{x^2 - y^2 - 1}{(x^2 + y^2 + 1)^2} dx dy = 0 \neq \lim_{a \to \infty} \lim_{b \to \infty} \int_0^b \int_0^a \frac{x^2 - y^2 - 1}{(x^2 + y^2 + 1)^2} dx dy = -\frac{\pi}{2} \ \text{である}.$$
 従って、
$$\iint_{x \ge 0, y \ge 0} \frac{x^2 - y^2 - 1}{(x^2 + y^2 + 1)^2} dx dy \ \text{は収束しない}.$$